

マタイ 1: 1-25

1:1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。

1:2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、

1:3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、

1:4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、

1:5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、

1:6 エッサイにダビデ王が生まれた。ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、

1:7 ソロモンにレハブアムが生まれ、レハブアムにアビヤが生まれ、アビヤにアサが生まれ、

1:8 アサにヨサパテが生まれ、ヨサパテにヨラムが生まれ、ヨラムにウジヤが生まれ、

1:9 ウジヤにヨタムが生まれ、ヨタムにアハズが生まれ、アハズにヒゼキヤが生まれ、

1:10 ヒゼキヤにマナセが生まれ、マナセにアモンが生まれ、アモンにヨシヤが生まれ、

1:11 ヨシヤに、バビロン移住のころエコニヤとその兄弟たちが生まれた。

1:12 バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにゾロバベルが生まれ、

1:13 ゾロバベルにアビウデが生まれ、アビウデにエリヤキムが生まれ、エリヤキムにアゾルが生まれ、

1:14 アゾルにサドクが生まれ、サドクにアキムが生まれ、アキムにエリウデが生まれ、

1:15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、

1:16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。

1:17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。

1:18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。

1:19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。

1:20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。

1:21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」

1:22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。

1:23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」(訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。)

1:24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、

1:25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

ルカ 2: 1-7,21-24

2:1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。

2:2 これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。

2:3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った。

2:4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、

2:5 身重になっているいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。

2:6 ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、

2:7 男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。

2:21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。

2:22 さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。

2:23 ——それは、主の律法に「母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばれなければならない」と書いてあるとおりであった——

2:24 また、主の律法に「山ばと一つがい、または、家ばとのひな二羽」と定められたところに従って犠牲をささげるためであった。

はじめに

クリスマスの説教でどんなことを話すべきか考えるのは、たいへんです。特に、30年近くもクリスマスについて説教を語っているとそうです。

けれども、今年は私も初めての内容です。祈ってはっきりと示されたのは、ヨセフのクリスマスとマリヤのクリスマスについて語ることです。

クリスマスの話には、主要人物が3人います。ヨセフ、マリヤ、イエスです。

今日は、ヨセフとイエスに関する聖書箇所を取り上げます。そして来週12月22日には、イエスの降誕に大きくかかわるマリヤの人生について、さらに多くの聖書箇所を読みます。

この個所で成就した旧約聖書の預言も、今週と来週に学びます。

1. ヨセフの系図 (マタイ 1:1-17)

まず、ヨセフの素性をはっきりさせることが重要です。マタイ 1:1-17にある先祖の系図をたどればわかります。

ここでは、1-2節と15-16節のみ読みます。

マタイ 1:1-2

1:1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。

1:2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、

マタイ 1:15-16

1:15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、

1:16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。

マタイの福音書でヨセフの先祖をたどっているのには明らかな目的があります。

第一に、マタイはユダヤ人でしたから、ヨセフも生粋のユダヤ人であることを明確にしたかったのです。第二に、イエスがダビデ王の子孫であり、ユダヤ人の王と呼ばれる権利があることを証明したかったのです。

また、新約聖書を学ぶときには、ヨセフが最初の人アダムの子孫であると認識することも大切です。

ルカ 3:23-38

3:23 教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子と思われていた。このヨセフは、ヘリの子、順次さかのぼって、

3:24 マタテの子、レビの子、メルキの子、ヤンナイの子、ヨセフの子、

3:25 マタテヤの子、アモスの子、ナホムの子、エスリの子、ナンガイの子、

3:26 マハテの子、マタテヤの子、シメイの子、ヨセクの子、ヨダの子、

3:27 ヨハナンの子、レサの子、ゾロバベルの子、サラテルの子、ネリの子、
3:28 メルキの子、アデイの子、コサムの子、エルマダムの子、エルの子、
3:29 ヨシユアの子、エリエゼルの子、ヨリムの子、マタテの子、レビの子、
3:30 シメオンの子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナムの子、エリヤキムの子、
3:31 メレヤの子、メナの子、マタタの子、ナタンの子、ダビデの子、
3:32 エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソンの子、
3:33 アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレスの子、ユダの子、
3:34 ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、ナホルの子、
3:35 セルグの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、
3:36 カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、
3:37 メトセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、
3:38 エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

ヨセフの先祖をアダムまでさかのぼるのは、クリスマス話では重要ではありませんが、第二のアダムであるイエスというお方を知る上で重要です。

イエスがユダヤ人であったことを知るのも大切です。旧約聖書には、神の選びの民が神に背き、偶像を慕ったと書いてありますが、それでもイエスはユダヤ人です。神は常に、ご自身の民の残りの者たちを守ってこられました。

その理由は、永遠においてご自身の民に計画と目的を持っておられるからです。

ユダヤ人は、イエスを信じて天国に行かなくてはなりません。

そうして、彼らは救われたユダヤ人となるのです。

今も彼らがユダヤ人であり、神の約束は今も彼らに向けられています。

ユダヤ人が私たちのように異邦人になることはありません。神の選びの民でありつづけます。

私たちはそういう意味でユダヤ人に敬意を払わなければなりません。

また、旧約聖書で神がユダヤ人に約束されたことも尊重しなくてはなりません。

新年になったら、イスラエルに対する神の目的について私たち全員が学べる説教を数回しようと考えています。

そのときには、このテーマに関わる聖書箇所を取り扱います。

使徒の働きシリーズ説教はとりあえず終わりとしたほうがよいでしょう。というのも、使徒の働きの第一部を終えてきりの良いところですから、新しい牧師にそのつづきをしていただけるからです。

初代教会の重要な歴史についてはすでに学びました。初代教会はユダヤ人から始まりましたが、神があわれみによって異邦人も新たな契約に招き入れてくださいました。

クリスマスとお正月の休暇中に、この新しいシリーズ説教の準備ができるのを楽しみにしています。

この重要なテーマについてしっかりと説教をするのは私も初めてです。

はっきりとわかりやすく、100%聖書に則った正しい教えをすることができるように、全員がこの学びをとおして祝福されるように、どうかお祈りください。

2. ヨセフは、マリヤの子イエスが処女受胎であると信じた。(マタイ 1:18-25)

この箇所には、ヨセフに関する重要な事実がいくつか記されています。

a) ヨセフはマリヤの婚約者だった。

まず、これは現代でいう婚約とは違うことを理解しておく必要があります。

ここには、ふたりが性的関係を持たなかったと具体的に記されています。

当時のユダヤでは、婚約は当人同士の了解を得たうえで交わされる家同士の約束でした。

その約束は、実際の結婚の時期よりもずいぶん前に交わされる場合もありました。

婚約が成立した後も、花婿は未来の妻とまったく離れて暮らします。ふたりが結婚後に住む新居の建設、または実家の増築に専念するためです。

これはたいてい9-12ヶ月かかりました。

この準備期間に、ヨセフは花嫁になるはずのマリヤが妊娠したことを知ったのです。

男の人はどう感じるでしょう。

もし自分がヨセフだったら、裏切られたと思って深く傷つくでしょう。そして、婚約者を一切信じられなくなるでしょう。
ヨセフがどう感じたかは記されていませんが、内密に婚約破棄しようとしたとあります。ヨセフはマリヤをさらし者にしようとはしませんでした。その罪が近隣に知れ渡るのを避けたのです。
ヨセフの中で、葛藤がありました。
マリヤの妊娠について真実を知りたいという葛藤です。
悪魔は、マリヤが村の他の男と関係を持って妊娠したとヨセフにささやいたかもしれませんが、神はそうではないとおっしゃいました。

b) ヨセフは、夢に現れた御使いの言葉を信じた。(20 節)

ヨセフは夢を見ました。
つまり、アブラハムをはじめとする旧約聖書の登場人物のように、直接御使いと対面したわけではありません。
御使いを直接見たのではないのです。
誰でも夢を見ますが、通常、夢は脳の記憶整理の過程で、その前の数日間に考えたりした内容がごちゃまぜになって出てきます。
夢は、脳の健全な記憶整理活動だと医師は言います。つまり、思考を片づけているのです。
脳が正常に機能するために大掃除をしているわけです。
けれども、サタンに感化された夢もありますから、気を付けなくてはなりません。
一方、神の聖霊に見せられる夢もあります。
当時のヨセフは、その夢がどういう性質のものかを見分けるのに神の助けが必要でした。私自身は、神が直接かかわられたという確信のある夢はとても少ないです。
けれども、そういう夢を見たときは、後に、神が語っておられた夢だったことを確認できる出来事が起こります。
最初の夢は、預言的な夢でした。神は、私の人生でまだ起こっていない出来事をあらかじめ教えてくださいました。
夢の中で、私はバスに乗ったり降りたりして、スコットランドのエジンバラで家探しをしていました。
そして、家探しにずいぶん苦労していたのをよく覚えています。
夢を見た時点では、エジンバラに引っ越す気は一切ありませんでしたし、エジンバラの聖書学校に行くことになるとはまったく思っていませんでした。
けれども 3 年ほどして、その夢が現実となりました。
聖書学校に行くのをあきらめようと思ったとき、その夢を思い出したのです。私は、公営の賃貸物件を探してバスを乗り降りしてしていました。
けれども、公営の物件は窓が割れているなどひどい状態で、治安も悪い地域だったので、そこに住みますと神になかなか言えないでいました。
けれども、神におまかせして、ある物件を受け入れることにしました。
そして、役所に戻ると、私が選んだ物件は修繕個所が多すぎるので入居できない、他に物件はないと言われました。
そのとき、あの夢を思い出したのです。
それで、あきらめずに家を探し続ける確信をもらいました。最終的に、神はエジンバラに近い田舎町で素敵な家を与えてくださいました。
その家は、私たち夫婦にとって祝福となり、そこに 3 年間住みました。
ふたつめの夢は、神戸で地震か災害が起こる夢を見たことです。
私が夢を見たときに、実際に神戸で地震が起こっていました。
冬には、英国は日本より 9 時間遅れています。1995 年 1 月 17 日に起こった阪神大震災のときでした。このとき、神が私たち家族を地震から守るために神戸から帰国させられたことを確信しました。そして、日本へ戻る道が閉ざされたときはつらいと思いましたが、実際には、神がみこころをなしてくださったのだと確信しました。

皆さんにお伝えしたいのは、ヨセフもその夢が神からのものだったと強く確信したはずだということです。

それでも、御使いの言葉を信じるには信仰が必要でした。

つまり、イエスが処女から生まれたと信じなくてはならなかったということです。

神が何らかの特別な方法でマリヤの胎内に胎児を宿された信じなくてはなりませんのでした。

ヨセフがそう信じるには、大きな信仰が要ったはずで。

私たちはどうでしょう。私たちは、処女受胎を信じているのでしょうか。

もし信じているなら、クリスマスをお祝いします。世界の創造主なる神が、目的を持ってこの世に来てくださったという喜びを持って、クリスマスをお祝いできます。

その目的とは、私たちが罪の罰から救うことでした。

c) ヨセフは、子どもを「イエス」と名付けなければならないと信じた。そして、その子が救い主となることを信じた。(21 節)

ヨセフは、この子どもの誕生の重要性を理解しました。

彼は、マリヤが男の子を生むと告げられました。これは素晴らしい知らせでした。

そして、その男の子が、神の民を罪から救うとも告げられました。

これは非常に興味深い言葉です。この子は、誰の罪を赦すのでしょうか。

誰の民を救いに来のでしょうか。

その答えは、ユダヤ民族です。

後に、異邦人である私たちも神の新たな契約に招き入れられることはわかっています。

けれどもマタイは、この子がユダヤ人を罪から救うとヨセフに示されたことを明らかにしています。

ヨセフはユダヤ人の家系で育ってきたので、選ばれたユダヤ民族に救い主が必要であることを承知していたでしょう。

新しい契約は、異邦人のためだけに計画されたものではありません。神はあわれみをもって、異邦人をユダヤ人の枝に接ぎ木してくださったのです。

これについては、新年にまた詳しくお話します。

d) ヨセフは、自分の見た夢がユダヤ人の救い主に関する預言に沿ったものだと信じなくてはならなかった。(22 節)

マタイは、イザヤ書 7 : 14 を引用しています。

イザヤ書 7 : 14

7:14 それゆえ、主みずから、あなたがたに一つのしるしを与えられる。見よ。処女がみごもっている。そして男の子を産み、その名を『インマヌエル』と名づける。

「インマヌエル」とは、神がともにおられる、という意味です。

イエス・キリストを信じる信徒にとってクリスマスは、神が「私たちとともにいる」ために来てくださったことを祝うときです。

つまり、私たちの創造主が人となられたということです。

神がこの地上に住みにきてくださったのです。それは、神がどのようなお方であるかを私たちに示すためです。

肉体的に、精神的に、霊的に苦しんでいる人々に、あわれみを示すために来てくださいました。

そして、全世界の罪を負って死ぬために来てくださいました。私たちの身代わりとなって死ぬために来られたのです。

ヨセフは、私たちが信じるべきことと同じことを信じなくてはなりません。それは、イエスが人となられた神であり、来たるべき神の御怒りから私たちに救うためにこの世に来てくださったことです。

3. ヨセフは御使いの言葉に従い、子どもの誕生に関するユダヤの慣習に倣いました。(マタイ 2 : 24-25、ルカ 2 : 1-7、21-24)

a) ヨセフは、御使いが命じたことに従った。

24-25 節には、ヨセフが夢から目覚め、御使いが言ったとおりにしたとあります。

ヨセフは、自分が作ったのではない子を宿しているにもかかわらずマリヤと結婚しました。

ヨセフは、御使いによって命じられたことに従いました。

これは、大切な個所です。神が私たちの人生に関して語られても、そのことばに従い通すのは難しいことです。

聖書を読み始めると、従えないと思うことがたくさん目に入ります。

そのようなことばに従うクリスチャンもいれば、いつか従おうと言って結局従わないクリスチャンもいます。また、神が命じられたことをよく考えてしっかり従い、神ご自身から祝福をいただくクリスチャンもいます。

クリスチャンとして生きるとは、規則を守ることではありません。イエスをとおして神と一対一のつながりを持つことです。

皆さんにお尋ねします。

神との関係は良好ですか。

神の命じられたことや教えに従っていますか。

もしそうしていないなら、今日から始めませんか。

皆さんの現状について、神は何を語っておられるでしょう。

皆さんにも、ヨセフのようであることをお勧めします。

神のみことばを信じ、神の命じられたことや教えに従ってください。

b) ヨセフは、自分の町ベツレヘムに行った。こうして、預言が成就した。(ルカ 2 : 1-7)

ヨセフは、妻も臨月でいつ子どもが生まれるかわからない、と言うこともできました。

妻の出産が終わってから、ベツレヘムまで取税目的の住民登録に行きます、と皇帝アウグストに言おう、きっとわかってくれる、と考えることもできました。

私たちが当時のヨセフの立場なら、そんなふうにしたのではないのでしょうか。

けれども、ヨセフはイエスの生まれる場所に何か特別な意味があることを察知していました。

それで、身重の妻をろばに乗せ、ナザレからベツレヘムに歩いて行きました。

2018 年 4 月のイスラエル旅行の参加者は、徒歩ではなくバスで移動しましたが、ベツレヘムからナザレの道のりを覚えていますか。上り下りのある山道でした。

高速でも 157 キロあります。ろばに乗っての旅はたいへんだったでしょうが、徒歩ならなおさらです。

c) ヨセフは生まれた子をイエスと名付け、ユダヤ人として神にささげた。(ルカ 2 : 1-24)

出エジプト記 13 : 1-2

13:1 【主】はモーセに告げて仰せられた。

13:2 「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである。」

レビ記 12 : 1-3

12:1 それから、【主】はモーセに告げて仰せられた。

12:2 「イスラエル人に告げて言え。女が身重になり、男の子を産んだときは、その女は七日の間汚れる。その女は月のさわりの不浄の期間のように、汚れる。

12:3 ——八日目には、その子の包皮の肉に割礼をしなければならない——

ヨセフは、生まれた子をイエスと名付けなさいという御使いの言葉に従いました。
そして、子どもに割礼を受けさせ、神にささげました。
神のみことばに則って、すべて正しいことをしたのです。
ヨセフは、従順と信仰、そして、イエスの重要性を理解することにおいて、すばらしい証を示しました。
模範的な神のしもべです。

適用

聖書箇所を学びながら多少適用についても話しましたが、ここで重要な原則と適用を振り返り、日常生活で実践しましょう。

1. 思考における戦いに勝ちましょう。

どんな考えもすべて頭が通過点ですから、頭の中の思考は、サタンとの戦場です。どんなに有名な人であっても、人間の考えに説得されないように気をつけましょう。
神のみことばを字義通り読み、歴史的背景や著者がそのことばを記した背景を踏まえて、みことばそのものによって納得しましょう。

テモテ第二 3 : 16

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

2. 選びの民であるユダヤ民族に対する神の目的と、これからの神のご計画におけるイスラエル民族の重要性を理解しましょう。

このテーマについては、1月か2月の説教で、明確にわかりやすく説明する予定です。

3. みことばから神が語られたことに従いましょう。

「考えさせて」と言って実行しないことがよくあります。もちろん、語られたことばが本当に神からか確かめる必要はありますが、神はしっかりと時間を取って、あらゆる状況からそのことを確認させていただきます。